

本朝水滸傳 八九
九

13
1137
8



門
1137
卷



如斯の併作を之八

第十四條

二人の大将軍軍兵を使せむと白山の常の如く
其の春院は併作無報の如く



神宗月十日をかりありし。山のありとまゝつらまはせしめり。めづりのがれ。林乃
木の葉のころぬく。降る。其の八十隈ハいそ。おそ。思のゆ千路ハ若きく
後之。秋嵐さむく。吹おひ。楕ハ植くるぞ。び。松ハこれ。精い。ひ。即ぬ。び
く。岩根と踏く。つ。お。は。け。大。將。橋。奈。良。麻。呂。さ。よ。り。お。り。た。ま。ふ。に。神。宗。秋
ま。ち。力。も。お。お。ぐ。り。り。と。ま。は。せ。よ。長。つ。死。る。が。み。横。ゆ。は。停。む。い。こ。ひ。と。は。か
ま。ち。か。え。え。お。り。せ。八。軍。兵。又。百。人。あ。ま。り。に。よ。さ。る。勢。と。ま。へ。ん。れ。ば。大。宮。子。に
ま。ひ。の。り。統。の。雲。の。海。ま。む。ら。う。ご。め。く。お。り。て。た。ま。め。り。ま。よ。つ。ら。ん。

大月水并身 卷之八

御書物 淀屋橋筋助梶木町
御経類 井筒同屋
萬貫本 本林田傳之清



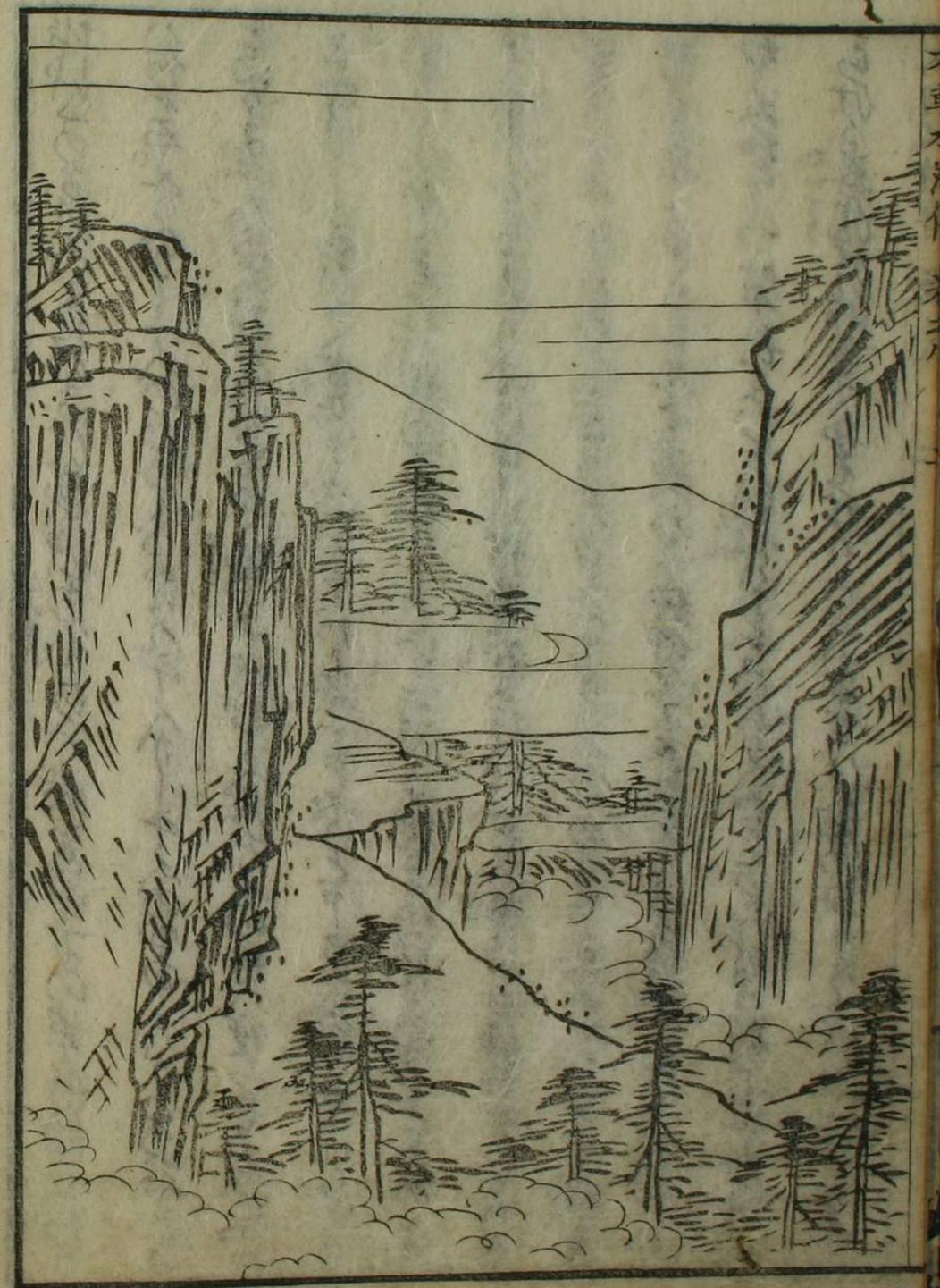
の元來淺むさけつ。梅^{すいび}鋒^{かこ}志^しと京^{きやう}のぞこらちりぐ長^{なが}ハお務^{つと}の
あてて。此^{こゝ}このちつゝるに。國^{くに}法^{はふ}家^けとたると。巖^{いわ}のくごせむ。門^{かど}方^{かた}ははく
軍^{ぐん}兵^{へい}皆^{みな}くおと。礼^{らい}儀^ぎ法^{はふ}なり。大^{だい}將^{しやう}とむなまに。かぐむ。ありの人^{ひと}乃^{なり}長^{なが}ハ
今^{いま}も。たうど。おひて。越^えつゝるもの。ハ門^{かど}方^{かた}ははく。おまの。ことある。に。つて
いのぬ。さ。ハ今^{いま}い。う。ハ。百^{ひやく}千^{せん}人^{にん}と。あ。る。と。も。ご。ご。り。長^{なが}ハ。と。も。お。お。え。さ。家^け
洞^{やう}の中^{ちゆう}なり。又^{また}洞^{やう}の。外^との方^{かた}は。ハ。六^む百^{ひやく}金^{かね}百^{ひやく}日^{にち}計^{けい}も。お。へ。く。彌^や津^づ者^{もの}と。へ。く。に
む。お。た。り。お。め。り。と。せ。は。い。う。へ。る。岩^{いわ}座^ざの。うち。あり。ご。ハ。七^{しち}十^{じゆ}家^けを。る。に
み。え。く。懸^{けん}懸^{けん}者^{もの}の。み。お。し。れ。面^{おもて}ハ。さ。味^{あじ}ある。ひ。か。ら。び。た。か。が。分^{ぶん}ハ。ハ。松^{しょう}の。衣^えさ
義^ぎも。ハ。洞^{やう}の。終^{すまひ}と。あり。辨^{わん}の。ハ。お。え。う。け。皆^{みな}津^づを。と。く。ご。ご。り。ま。り。と。二^に人^{にん}
の大^{だい}お。よ。き。り。て。い。ま。く。軍^{ぐん}兵^{へい}を。と。よ。千^{せん}人^{にん}ハ。戦^{いくさ}ぬ。軍^{ぐん}ハ。お。れ。天^{てん}津^づれ。ま。び。

地^ち津^づの。お。び。人^{ひと}と。た。の。ま。び。我^わ津^づ不^ふ救^{きう}とい。り。女^めを。千^{せん}万^まの。軍^{ぐん}兵^{へい}お。む。む
ハ。何^{なに}ぞ。や。千^{せん}人^{にん}か。一^{いち}人^{にん}の。む。お。る。ふ。よ。お。ん。千^{せん}人^{にん}か。一^{いち}人^{にん}の。む。お。る。ふ。か。と。お。や。と。ま
こ。ゆ。お。二^に人^{にん}の。大^{だい}お。の。お。め。お。の。よ。く。後^ごと。と。む。る。は。い。づ。の。勢^{せい}ハ。強^{かぢ}く。と。い。は。ふ
ま。か。へ。い。お。ひ。く。賢^{けん}ぶ。ぐ。び。と。や。ら。む。を。と。む。り。と。や。さ。ひ。老^{らう}人^{にん}と。て。か。お
ゆ。づ。り。に。お。も。ま。れ。が。糧^{りやう}の。の。津^づと。い。と。強^{かぢ}く。と。い。ま。ふ。お。ひ。た。よ。お。の。ま。は。今^{いま}よ
軍^{ぐん}中^{ちゆう}は。よ。ま。あ。り。西^{せい}の。守^{しゆ}大^{だい}付^ふ藤^{とう}持^ぢよ。ら。ひ。て。その。糧^{りやう}の。の。津^づお。せ。んと。お。も
お。る。た。る。か。ら。ハ。日^{にち}を。わ。り。久^くる。ふ。十^{じゆ}日^{にち}を。わ。り。の。うち。よ。か。お。ひ。お。の。糧^{りやう}を
お。も。ま。る。ん。と。ま。と。ま。と。く。お。づ。か。ハ。山^{さん}津^づと。い。う。こ。お。ら。し。さ。津^づ今^{いま}あ。り。の。と。も
か。ら。み。お。ら。し。つ。軍^{ぐん}兵^{へい}よ。む。る。ひ。彼^{かな}る。その。老^{らう}人^{にん}と。い。ハ。彼^{かな}ハ。別^{わか}け。岩^{いわ}座^ざに。お。ひ
ら。ける。春^{はる}虎^こは。作^{たく}あ。く。お。を。せ。り。と。い。ふ。ご。ハ。春^{はる}虎^この。り。る。に。は。お。い。は。お。を。ま。ひ

大月之舟亭



大月之舟亭



の五折の陣とうけあつてさむが。天下の勳陣考へかゝるべしあつぬ人いぞ来
るんは陣さう。志ざつては白心のまゝ陣ひびたてたり。勢をいとおるは陣
の善なりのかあぞまゝつら。いと貴死異人おどろひりつら。さて忠臣の申ハ
らと削り。勢を作り。ぞ刀を磨き陣ひ磨く。さう死と死とをせはるる。

第十六條

大伴家持養健よまき。兼に家持が殺るるあつ
徳をまゝりちまか。たつひ。程陣白心よ送る。む。

守大伴宿禰家持御ハ。おぼろみのお吉かこみ。女名おの勢と名よおける中つ
風陣をい任られ。子に。國の政勢に陣あつと死ハ布施の御さにてらさる。あつハ
まのま べ けのめ まつとえ

かてて風流にむ陣なごうたまふ。は火のいれも水草枯く。後月さくあつあ
に。おの勢いとさうは。集りとおぼひて。守まひるをの侍陣いさるひ。今日ハは火の
いよる勢をちと。子殺れよ。別く遠もや。はきハ形尾の大志とあつた。尾
後よりつひくおつら。ひ。おの勢の志は。礼麻呂を。さうまは。ひさく。つら。ま。あ。さ
ア。さ。ま。古の。志。知。ま。かり。さ。芦。野。を。さ。た。く。は。つ。つ。え。つ。つ。お。は。れ。ま。ろ。う。
陰よま志ぬひて。尾後。礼。麻。呂。ま。を。お。ち。る。れ。が。お。勢。ハ。お。き。う。さ。飛。ひ。ら。る。に。
お。ち。る。お。勢。さ。う。ち。勢。と。く。や。お。ち。る。お。勢。ま。た。ひ。ひ。か。つ。り。お。は。ま。む。ひ。さ。き。に。あ
が。二。上。心。を。飛。越。つ。と。え。が。お。勢。か。つ。つ。か。け。う。さ。せ。ぬ。守。つ。つ。陣。を。さ。さ。あ。ひ。ら
へ。た。ま。ご。も。か。つ。び。お。は。れ。礼。麻。呂。ハ。天。よ。ち。あ。た。く。う。ち。ま。あ。ぬ。き。さ。も。き。ん。せ。な。な
ん。ん。守。ハ。お。ち。る。火。さ。つ。り。え。さ。お。ち。り。お。勢。い。さ。ひ。の。さ。た。ま。ひ。な。れ。ど。も。た。だ。お。ち。り。あ。つ

本朝水滸傳 卷之九

第十七條

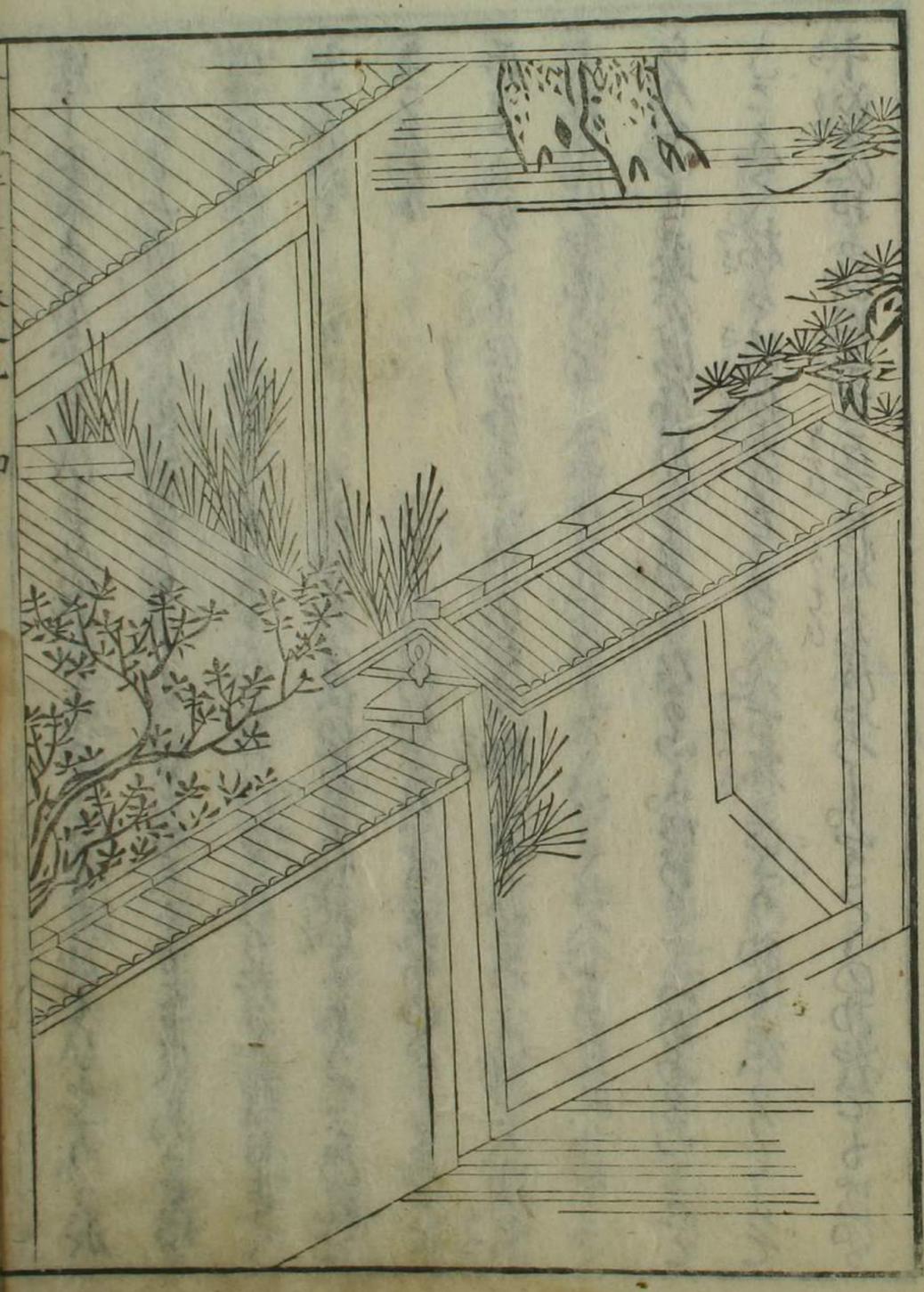
守大伴宿禰家持授法台の経源并に和南於ま
ち乃家持の飯よ来源

春虎は那の教よまかせく。徳見の教よ傳流ぬひ。彼よ如くかひぬがひは。
あやし人のありさまありき。何れもあれ誓切つるむねの遺下と誓が。俄に夜
ときくめひは揚大伴宿禰傳き。大目春三守半島家來流すのて秋
よ来る方に。守大伴宿禰家持を岳にむかひて告ぐ曰。おなん志くこのむね
あり。白山の春虎をこれお子の流り乃傳り。が。春傳流返く白山よこも
るといども。天下の民のたれよ八世行はまるとむねられど。その死神と八天下の
茶のまにありひが。ととききえ。それくのの流我に授くつるよ。と。不き
ニテリナク

徳見の氣よりひき。此の事決りて。きつぬ。きつ徳見の氣は。今ハ仙人と
 申す。木の葉を夜に。もみちぢく。雲は。ちぢく。山は。水とひき。そ我は。別
 したまふ。んとする。時。天下の。ゆハ。我ハ。い。ど。この。ま。ひ。き。こ。え。こ。ら。と。返。り
 て。き。り。あ。ひ。ぬ。さ。い。の。一。言。を。お。あ。ら。ん。又。奉。建。が。徳。見。の。氣。決。り。た。の。ま。は
 え。つ。る。む。ね。い。百。人。の。人。は。重。決。願。せ。千。疋。の。た。り。重。決。お。を。せ。十。次。の。牛。に。控。せ。願。ハ
 せ。白。の。雲。は。決。り。や。こ。も。決。り。七。千。人。の。人。に。使。ま。い。く。氏。姓。の。う。ま。い。の。ん。を。お。り。
 我。を。さ。う。け。ひ。か。び。ハ。お。と。る。き。つ。決。り。た。と。の。ま。は。我。を。さ。う。け。ひ。か。ら。ん。き。つ。
 へ。お。ひ。捨。て。死。お。お。り。あ。ひ。く。ハ。き。つ。決。り。た。と。せ。ね。ど。氏。の。ま。の。世。行。と。い。れ
 ば。我。う。け。ひ。う。さ。ん。や。と。推。初。と。その。區。決。あ。か。ん。で。お。り。は。ゆ。の。公。に。お。り。私
 り。私。の。さ。く。跡。止。も。あ。ら。び。女。ま。の。世。む。ね。い。う。ま。と。あ。ら。ん。は。決。り。た。と。い。ふ。年。

となり。あ。ま。く。い。ら。ん。こ。い。わ。か。く。我。も。あ。ら。ん。た。と。か。な。ぬ。公。の。世。と。あ。あ。り。とも。
 下。官。ら。う。け。ひ。き。ま。え。ん。と。い。ひ。て。血。を。決。ひ。く。か。せ。米。決。お。し。重。決。お。し。控。せ。お。し。
 せ。お。り。ち。奉。ま。守。八。千。疋。あ。ま。あ。せ。人。は。願。せ。る。に。願。せ。牛。に。控。せ。せ。く。決。り。や。ら
 め。は。い。は。お。り。あ。ま。の。死。た。う。う。と。二。日。二。夜。の。あ。ら。死。い。う。り。て。白。の。ゆ。り。と。ま。あ
 ぬ。あ。ら。と。決。り。死。い。う。り。ハ。里。人。は。い。ひ。ゆ。を。さ。く。牛。疋。あ。ら。づ。る。決。り。た。の。む。せ。と。く
 ぬ。け。は。い。は。お。り。あ。ま。の。死。い。う。り。た。に。決。り。く。の。あ。ど。も。む。か。あ。ら。り。そ。申。す。ハ。二。人。三。人
 袴。は。布。か。さ。ぎ。ぬ。さ。う。ち。あ。け。く。お。り。た。け。る。も。む。か。あ。ら。り。あ。ら。の。た。ハ。い。と。さ
 か。く。お。り。あ。ま。の。死。い。う。り。た。に。決。り。く。の。人。を。さ。う。う。り。た。と。い。ふ。ん。が。お。り。こ。と
 には。ハ。我。を。さ。う。け。ひ。か。ら。ん。と。い。ひ。て。血。を。決。ひ。く。か。せ。米。決。お。し。重。決。お。し。控。せ。お。し。
 氏。い。も。に。願。せ。か。な。と。い。ひ。き。く。千。人。を。あ。り。の。氏。を。お。し。米。決。お。り。せ

本朝水滸傳 卷之九 三



本朝水滸傳 卷之九 三



冠一虫着子むかへおひまみの。或士礼とくく一産成をひごう。うけ
 つたてて日ツツク中官ハ白山の岩をぬきまへる。秘宗がまき力とやひ力のあて信。
 此夜奉院の山行より死す。信まきまへに釋師多難りたまふ。難有まてく
 かのけりまき。中官山行よりかまらる。彼の者るれば松カハニよまらうてその礼と
 きこえなることやに。守きこくそハ此礼よきたり。天下のものとまへんと
 遊りこハかく官ツツクのさむらふ様。いかに物モノまハつふまらうん。信又殺也
 一信の奉院のより入のありて。たやまてはくゆハ。その礼又あかて
 らんや。いと遠に山行かくまらうたまふ。山行もどつかあつくと
 きこえまき。松ツツクをぬきありまらう。八百松よりり物を飯よりまらうて
 千松に松のひぬき。そまへは信東山やう。まらうの物信とまらう。

此のびまき。高き力破信とひく。い守山信入。まらうま。その秋よまらう
 松のち思をぬきまらう。信まきまらう。そのまらう
 い守をかまらう。まらう守のとうれ。かりまらう。おのれまらう。か
 ら信まらう。信まらう。まらうまらう。まらうまらう。まらうまらう
 信まらう。まらうまらう。まらうまらう。まらうまらう。まらうまらう
 とうまらう。まらうまらう。まらうまらう。まらうまらう。まらうまらう
 つたてまらう。まらうまらう。まらうまらう。まらうまらう。まらうまらう
 いまらう。まらうまらう。まらうまらう。まらうまらう。まらうまらう
 又まらう。まらうまらう。まらうまらう。まらうまらう。まらうまらう
 日ヒを信ツツクりまらう。まらうまらう。まらうまらう。まらうまらう。まらうまらう

何ぞみゆるひと。唯一時よせしつげん。客よのけり。興よまのむせ馬
 はあつるどろ。ぞ里をわりのなほとく。れ。ま。能保其の亦よ。い。れ。が。流。磨。を
 人くはきりく。い。く。び。野。を。む。か。傷。建。を。亦。の。ま。より。か。く。の。が。せ。あ。ふ
 と。死。は。殺。め。く。は。病。の。ま。び。く。か。う。ま。あ。ひ。ま。天。下。の。民。さ。と。あ。が。い。の。ち
 あ。け。ん。人。を。平。那。の。心。乃。熊。搏。が。亦。と。繁。華。ま。さ。せ。と。の。あ。せ。た。ま。う。り。
 は。平。那。の。心。と。い。ふ。大。和。の。ま。る。れ。と。も。は。由。歌。ま。あ。り。く。や。は。さ。る。所。の。後。
 あ。つ。づ。く。渡。の。へ。は。熊。搏。俄。ま。ま。し。ひ。あ。く。百。夜。を。ま。さ。う。ひ。ろ。う。と。む。か。い
 あり。い。は。く。し。され。び。ぞ。との。持。乃。系。ハ。彼。平。那。の。心。乃。か。ま。ら。び。と。は。く。し。
 人。く。小。松。の。心。と。い。う。繁。華。ま。ま。し。ひ。あ。く。は。さ。る。所。の。後。又。い。く。は。さ。る。ハ。明。の。あ。り
 天。空。の。祖。父。乃。は。神。の。ま。ま。さ。せ。と。い。ひ。は。信。と。い。ひ。ま。ま。は。五。重。の。心。と。い。ふ。

らんや。秋は。渡。は。ま。向。と。程。ひ。か。ふ。り。の。心。乃。ま。ん。人。く。も。初。た。ま。と。く
 程。の。く。渡。に。あ。う。ぞ。程。の。の。あ。れ。が。大。和。の。亦。乃。松。が。程。ま。あ。く。と。り。あ。り。ぬ。程。
 な。り。く。

ち。ま。あ。け。る。珠。松。が。え。の。ま。向。と。程。ひ。か。ふ。り。の。心。乃。ま。ん。人。く。も。初。た。ま。と。く
 ま。あ。き。の。刀。自。心。ち。ま。あ。け。る。珠。松。が。え。の。ま。向。と。程。ひ。か。ふ。り。の。心。乃。ま。ん。人。く。も。初。た。ま。と。く
 せる。心。乃。ま。ん。人。く。も。初。た。ま。と。く。

人。の。ま。向。の。心。乃。ま。ん。人。く。も。初。た。ま。と。く。

金。葉。の。子。孫。乃。今。ハ。程。程。ま。ま。し。ひ。あ。く。

八

とてひくその表紙なり。わろ死又かへまうしあくこしの菟耳まを死をれ
よりこの栗の圃たふ金銀まはより。はる世ミカ神ミカひたり。わひつるまはる。今もた
いさうしてはる。はるわひひあまのりりま。

芽のりる人。一様をむか。あぬをゆ

とあみく。後天の核のひ。なるか。うう仇さのは方まま入はおこつ。日ひもさく
さ。のりにはまさたらまさく。遊た方はいとさか。くれと。ままくは
るひまあささく。わらいとく。ありとわささららゆゆゆゆ。仔細ひに
のりまはびあもぞままびく。際まけり。女め奴に牙ををゆ肩ひ大おた
刀ち麻まをたまのなり。金きん石せき足あしと肩ひまあせ。日ひまはこのひたのひ
あらべく。まままの中の一いち。白しろ猪ぶをまの大おまつく。日ひまはせんまのま

てかくとヤセの祖そまもきまらしめさいらくめでたくわほめされ。白しろ猪ぶを
書かもあひくひたらふ。金きん麻ま呂りょ日ひのまひあ。娘むすめのまままをまみたれ。
と白しろ猪ぶがはまはとれるうたら。こいとまらなるゆりなりわどいひて。あ
ゆまらづ信しんなり。白しろ猪ぶもいとあゆたまま。そのまままゆゆひつけて。
るわりくいひあぶくわ入と。ままらら麻ま呂りょのままま。ままひま。ままらら礼れ厚こう
くまままなり。人ひと。ままままひまれぬ。こいとまらの物ものはいあまもあらう。かい
つけんいらかをとげくならん。ままのままま祖そまも麻ま呂りょには同どうとあまらり。
彼から思ひまららららままと感てまあひ。まま金きん麻ま呂りょ親せ子こが志願げん
へたあひ。ままに大おまらら女に奴にも大おまららままままてそのあららららら
直ちゆりゆりままわら。又また切き切きの女奴に移うつへるに巨勢せい猪ぶもまままらら

あやまりて新しき御成紙を牙悔くひてやひ祖まつくはにあらせしむた
まひ。まのあやまりのゆゑにひとゆりたまひ。白狐のまをたかひきこえは
麻呂書子。希に金麻呂ハ高にわしと。おぼきみのゆるぐさみをやこせ
たぢ人。成紙を牙金石大ち力の穿ハ。尾法三の遠に波の甲斐傳を
のりよりにさむくせて。人の志を合せたまふとく。その月十あり七。おまをた傷
りく心海をさるぬ。そのまを新し真山よ。さむくハ人ハ娘のまありと。今ハ
かく故人のつらまるとひませるに。祖まもうちよまぎびておがりけり。

布敷の所傳卷之九終

